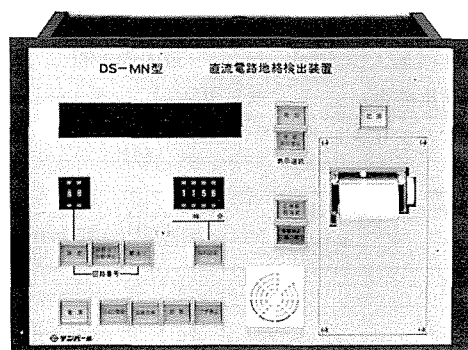


直流電路地絡検出装置 (標準48回路用)

DS-MN型

■仕様 (下図を参照して下さい。)

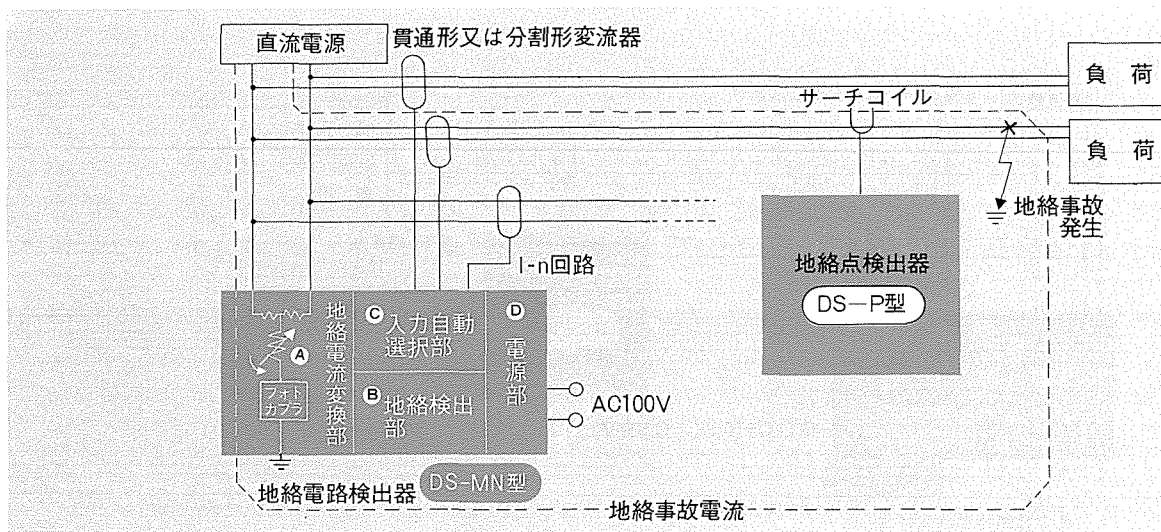
各 部 名	定 格 仕 様	
①地絡電流変換部	発振周波数	11Hz(正弦波)
	地絡電流表示	最大表示33mA
②地絡検出部 (演算処理部)	地絡レベル	99(最大表示)
	地絡検出能力	9.9k Ω (対地静電容量50 μ F以下)
	バンドパスフィルターの中心周波数	11Hz
	アンプフィルター総合ゲイン	70dB以上
③入力自動選択部	入力数	1~48(指定のこと)
	選択時間	1秒/1入力
④電 源 部	AC100V	
本体標準価格(円)	3,600,000(48回路用)	



DS-MN型

対地分布静電容量の多い設備(大容量変電所等)では、上記仕様を多少変更する場合があります。

■動作の概要



図のように、地絡事故が発生すると地絡電路検出器が次の順序でどの電路(分岐回路)に地絡が生じているかを指示します。

- ①回路に地絡が発生すると、その回路に設置した直流地絡継電器64Dが警報を発します。
- ②地絡電路検出器(DS-MN)が始動すると同時に64Dの接地を切り離しますとDS-MNの地絡電流変換部で地絡事故電流を11Hzの正弦波的脈流に変換します。
- ③地絡電路検出器の入力自動選択部が、回路番号を1秒毎にデジタル表示しながら、貫通形変流器からの信号を無接点スイッチで切り替えていきます。
- ④無接点スイッチで選択されて来た信号は、地絡検出部で増巾、フィルタし、電路の容量性のものか地絡事故による抵抗性のものかを判別するように地絡電流変換部の信号によって同期整流し、これをデジタルに表示します。信号が設定レベルを越えると、回路選択を停止して警報を発します。プリンター打出しの場合は、事故発生時刻・地絡抵抗値・地絡電流値や極性を印字したのち、全回路番号と地絡レベルを印字します。入力自動選択のスタート・ストップは、手動でもできますし、ステップ送りもできます。

- ⑤次に、携帯用の地絡点検出器(DS-P型)で、その電路のどこに地絡点があるかを探索します。

一般に直流制御回路には、直流地絡継電器64Dが設備されています。この場合には、64Dが動作して警報したあと、本装置を手動で始動させるか、自動で始動させるかは任意に設定できます。

本装置で検出操作するときは、どちらの場合も直流地絡継電器64Dの接地は切り離す必要があります。